

第3章 近年の社会におけるスポーツの中での 性的マイノリティの取り扱いについて －新聞報道を中心に－

伊東佳那子¹⁾

ここでは、国内主要2紙に掲載された、スポーツに関連する性的マイノリティの記事がどのような内容であったのかを検討し、社会における性的マイノリティに対する関心や、課題の全体像を描くことを目的とする。

対象の新聞社を、朝日新聞、読売新聞の2社とし、ウェブサイト上に掲示されたデータベースのヨミダス歴史館、開蔵Ⅱビジュアルから性的マイノリティとスポーツに関連する記事を収集した。対象年について、性的マイノリティの新聞記事を検討した松尾（2013）は、朝日新聞において「性的マイノリティ」という語句が使用されたのは1991年以降であるとし^{注1}、また「性同一性障害」は1998年、同性愛は1990年であると報告している。このことを踏まえ、本報告では、1980年以降の新聞記事の検討を行うこととした。収集においては、松尾（2013）を参考に以下のキーワードで記事の検索を行った。ただし、本報告に関連のない記

事^{注2}については対象から除いた。

「同性愛（者）」「性転換」「性別変更」「性同一性障害」「性的マイノリティ」「性的少数者」「半陰陽」「インターセックス」「トランスジェンダー」「LGBT」

1. 新聞記事数と登場年数にみるスポーツにおける性的マイノリティへの問題意識

表1は、上述したキーワードの検索数(全体)と、スポーツに関する記事数(スポーツ関連)と割合を示したものである。つまり、性的マイノリティを取り扱った記事の中で、どれだけスポーツに関するものが報道されてきたかを表している。どのキーワードにおいても、スポーツ関連の割合は、全体の中で1%にも満たないものが多かった。これは、スポーツにおける性的マイノリティの問題が、取り上げられることなく潜在化していることが考えられる。この潜在化こそが、現在における

表1 スポーツに関連する性的マイノリティの記事数

キーワード	朝日新聞			読売新聞		
	全体(件)	スポーツ関連(件)	割合	全体(件)	スポーツ関連(件)	割合
同性愛（者）	3360	14	0.42%	2553	9	0.35%
性転換	592	12	2.03%	415	6	1.45%
半陰陽	26	0	0.00%	19	1	5.26%
性的マイノリティ	208	0	0.00%	91	0	0.00%
性同一性障害	1307	10	0.77%	865	14	1.62%
性別変更	229	3	1.31%	181	1	0.55%
性的少数者	1305	8	0.61%	514	0	0.00%
インターセックス	17	0	0.00%	14	0	0.00%
トランスジェンダー	456	2	0.44%	210	0	0.00%
LGBT	1009	6	0.59%	403	2	0.50%

1) 中京大学大学院

表2 スポーツに関連する性的マイノリティの記事の登場年

	朝日		読売	
	全体 (年)	スポーツ関連 (年)	全体 (年)	スポーツ関連 (年)
同性愛 (者)	1984	1992	1986	1995
性転換	1984	1999	1986	1999
半陰陽	1986		1988	1990
性的マイノリティ	1991		1999	
性同一性障害	1995	2002	1996	1999
性別変更	1996	2017	1998	2003
性的少数者	1997	2013	1997	
インターセックス	1996		1999	
トランスジェンダー	1997	2016	1998	
LGBT	2004	2015	2008	2017

スポーツの状態といえるのではないだろうか。

また、朝日新聞、読売新聞それぞれにおいて、初めて各キーワードが登場した年数と、スポーツに関連する記事にそのキーワードが登場した年数を比較したところ、かなり遅れて登場していた(表2)。これは、スポーツにおける性的マイノリティへの問題意識や、世間の興味関心の薄さが要因ではないかと考えられる。

2. スポーツ選手のカミングアウトによって明らかになる性的マイノリティの問題

1980年～2003年までにおいて、スポーツにおける性的マイノリティに関する内容のほとんどは、「スポーツ選手によるカミングアウト」であった。記事には、選手が自身の性的指向(セクシュアリティ)や、性自認(ジェンダー・アイデンティティ)を告白した事実と一緒に、その選手が所属する連盟や団体が、この課題をどう解決させたかなどが記載された。例えば、2002年3月29日付の読売新聞には、同年に性同一性障害であることを公表した競艇の安藤千夏選手を、全国モーターボート競走会連合会は人権上の観点から、男性として登録変更を行ったことが記された。性的マイノリティであるスポーツ選手が抱える問題や現状は、選手が自身についてカミングアウトすることでしか、取り上げられることはなかったといえる。

また、過去にカミングアウトした選手が記事に取り上げられる際、「自分らしく」、「ありのまま」、



記事1 2013年12月21日朝日新聞

「本当の自分」といった表現で選手が紹介された(記事1)。また、「性転換選手」や「男性自認レスリング選手」、「元男性選手」といったように、自身の性的アイデンティティが代名詞となるケースもみられた。

3. 記載内容の変化

2004年に「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律」（以下、特例法）が施行された。また、同年にIOC（国際オリンピック委員会）は、性別適合手術を受けた選手のオリンピック参加に関して、術後2年を条件とした新しい方針を発表した。この出来事以降、新聞記事の記載内容にも変化がみられた。

前述したように、2004年以前の新聞記事の多くは、選手が自身のセクシュアリティやジェンダー・アイデンティティを公表したこと、海外選手などによる差別発言が問題視された程度であった。しかしながら、上記の出来事以降、これまで個人の問題として捉えられてきたスポーツにおける「性同一性障害」の問題が、社会全体の問題として認識され始めた。

また、2013年にロシアは同性愛宣伝禁止法を制定し、ソチ五輪に参加する同性愛者のスポーツ選手も対象になる可能性が懸念された。この法律を受け、新聞では様々な抗議の事例が紹介された。例えば、Googleのトップページに同性愛の権利運動を象徴する6色の「レインボーフラッグ」をあしらったロゴが掲げられ、オリンピック憲章の一節が添えられた。Googleの広報担当は、公式の抗議声明は出さないとしながらも、オリンピックにおける差別の禁止を訴えた。（2014年2月8日朝日新聞）。

この1年後、オリンピック憲章のオリンピズムの根本原則6に「性的指向」という言葉が追加され、これまでで最も多くの差別の形態が明示された（日本スポーツとジェンダー学会、2016）。この変更をうけ、ワールドラグビーと国際ゲイラグビー連盟は、競技からあらゆる性的差別をなくするための協定を結んだと発表した（2015年3月7日朝日新聞）。また、2020年東京オリンピックの公式スポンサーであるパナソニックは、オリンピック憲章の変更を背景に、同性のパートナーも結婚と同じように認める方針を明らかにした（2016年2月19日朝日新聞）。このようにオリンピック憲章の変更を契機に、スポーツ界だけではなく企業においても少しずつ性的マイノリティへの理解と

対策が始まっている。

4. 現在まで残る課題

性的マイノリティに関する法律や規約等の成立、変更により、性的マイノリティに関する考え方は少しずつ変化してきた。日本では、2020年東京大会にて使用する物品の製造、流通に関するルール「調達コード」に、LGBTなどを含めた「社会的少数者の権利尊重」の項目を記載し、LGBT理解への機運が高まっている（2017年5月15日朝日新聞）。その一方で、現在にも様々な問題が存在している。

2016年、ボクシング選手であるマニー・パッキャオが「同性愛は動物以下」などと発言し同性愛者を侮辱した（2016年2月18日読売新聞）。これを受け、スポンサーであったナイキは契約を解除したが、未だ性的マイノリティへの理解が行き届いていないことがわかる。また、2017年には、男性と自認する米国の高校生レスリング選手が、男子の大会への出場が認められず、女子の大会に出場した（2017年3月29日朝日新聞）。さらに、オーストラリアンフットボールのプロリーグ（AFL）が、2年前に女性に性別変更した選手を、女子リーグでプレーさせない方針を決定した（2017年10月19日朝日新聞）。オリンピックにおいては、性別変更した選手の参加は、2013年に認められているが、各スポーツ組織や団体などの対応は未だ追いついていない現状がある。

スポーツは伝統的に男性のものと考えられてきた（シェリル、2012）。男性によって始められた近代スポーツへの女性の参加は、男性部門とは別の「女性」部門を追加することによって成された（近藤、2005）。この歴史背景から、現在ではスポーツは男女に分けて競技することが一般的とされている。しかし、この生物学的性別の男性／女性で分ける方法では、性同一性障害などの選手が、自身の認識する性別に属して競技することはできなかった。このスポーツにおける固定観念や偏見こそが、性的マイノリティに関する問題が不可視化する要因ではないだろうか。

本報告を通じ明らかになったことは、スポーツの中に存在する性的マイノリティに関する問題を

私たちに示したのは、実際に悩みを抱える選手本人であったということだ。性的マイノリティである選手やスポーツそのものの存在は、私たちにマイノリティについて考え理解する契機を与えてくれるのではないだろうか。また、オリンピック憲章の変更によって、企業や社会の制度が変化したように、スポーツは、相互理解へのきっかけとならなければならないと考える。「いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない」（オリンピック憲章オリンピズムの根本原則6）を実現するために、私たちは、人を性別で区別するのではなく、「個」として捉えその平等について考えていく必要があるのではないだろうか。

今回の新聞記事の検討では、上述した10のキーワードより抽出を行った。しかし、このような語句を限定する形では、潜在化するマイノリティの問題が明らかになりにくかった。今後は、性的マイノリティなどを示す語句にとどまらず、マイノリティが排除されてきた歴史的背景や人権問題に関するこれまでの議論などを検討した上で、検索するキーワードを選定する必要がある。

注1）マイノリティ・グループを定義し、人権や多文化共生の観点からの検討が行われたのは、海外では1980年代に入ってからであったと考えられる。

注2）本報告とは直接関係のない内容として、以下のものを除外した。

書評、講演会・講座開催の案内、映画の紹介、性同一性障害の人物紹介の中で、スポーツ経験のみが記され、スポーツ場面におけるマイノリティの事例の記載がないもの。

引用・参考文献

松尾由紀子（2013）学校教育と社会における性的マイノリティに関する言説研究－1990年以降の教育メディアと新聞記事の記述分析－，静岡大学教育学研究9，pp.17-38.

読売新聞（2002）「“僕”の決断 競艇選手歴18

年「性同一性障害」公表 性別変更5月再デビュー」読売新聞，2002年3月29日，朝刊，38項。

朝日新聞（2013）「リングの上，ありのままの自分 女子プロボクサー真道選手，性同一性障害公表」朝日新聞，2013年12月21日，夕刊，10項。

朝日新聞（2014）「同性愛規制に抗議の虹色 グーグル」朝日新聞，2014年2月8日，夕刊，6項。

朝日新聞（2015）「同性愛の差別排除へ，ラグビー界団結」朝日新聞，2015年3月7日，朝刊，17項。

朝日新聞（2016）「同性婚対応，動く企業 パナソニック，規則改め容認へ」朝日新聞，2016年2月19日，朝刊，10項。

朝日新聞（2017）「多様な性，開かれた五輪へ 東京向け研修，取引企業にも基準 リオ，50人以上カミングアウト」朝日新聞，2017年5月15日，夕刊，7項。

読売新聞（2016）「ナイキ差別発言巡りパッキョオ契約解除」読売新聞，2016年2月18日，夕刊，3項。

朝日新聞（2017年）「男性自認レスリング選手，米に波紋 男子大会出場できず…女子大会V」朝日新聞，2017年3月29日，夕刊，6項。

朝日新聞（2017）「性別変更した選手，排除 豪式フットボールリーグの決定波紋」朝日新聞，2017年10月19日，朝刊，11項。

シュエル・ベルクマン・ドゥルー（2012）「スポーツ哲学の入門」（川谷茂樹訳）ナカニシヤ出版，p.231.

近藤良享（2005）スポーツと性別－女性確認検査／性転換選手容認の問題－「性別を考える－医学・法学・スポーツ科学の対話」，コミュニティ政策研究，第7号，pp.21-27.

「オリンピック憲章オリンピズムの根本原則6」<https://www.joc.or.jp/olympism/charter/pdf/olympiccharter2015.pdf>（閲覧日：2018年4月7日）

加藤秀一（2006）知らないと恥ずかしいジェンダー入門，朝日新聞出版。

日本スポーツとジェンダー学会編（2016）データで見るスポーツとジェンダー，八千代出版。

スポーツと性的マイノリティに関する新聞記事一覧

年	月	日	新聞社	形態	項	タイトル	キーワード
1990	3	25	読売	朝刊	不明	〔女性とスポーツ〕性別チェックはなぜ必要なのか 伊藤 博之（寄稿）	半陰陽
1992	6	16	朝日	週刊	72	外国人プロレスラーにエイズ検査を義務化	同性愛
1995	5	14	読売	朝刊	15	同性愛発言で女子ゴルフに波紋	同性愛
1998	8	3	読売	夕刊	2	ゲイのスポーツの祭典 アムステルダムで開幕	同性愛
1999	7	7	朝日	夕刊	2	性転換ゴルファー強いぞ 豪の32歳「元男性」、アマ大会で優勝	性転換
1999	7	13	読売	朝刊	25	女子プロゴルフに「性転換問題」	性転換
1999	8	23	読売	夕刊	8	男女差はどのように決まるのか 「遺伝的性」「体の性」 ねじれ	性同一性障害
1999	12	25	読売	朝刊	16	ブレーブスの火消し役ジョン・ロッカー投手、差別発言で火だるま	同性愛
2000	2	2	読売	朝刊	17	ブレーブスのロッカー投手が差別発言問題で出場停止処分	同性愛
2002	3	29	朝日	朝刊	37	女性競艇選手、晴れて「男」に	性同一性障害
2002	3	29	読売	朝刊	38	“僕”の決断 競艇選手歴18年「性同一性障害」公表 性別変更5月再デビュー	性同一性障害
2002	5	10	朝日	夕刊	12	晴れて男性選手、安藤さん再出発	性同一性障害
2002	5	10	読売	夕刊	18	「性同一性障害」公表、競艇の安藤選手「男として走れた」	性同一性障害
2002	5	11	朝日	朝刊	37	心の抑えとれ、男性に登録変更	性同一性障害
2002	5	15	読売	夕刊	14	「男性」として初勝利	性同一性障害
2003	3	26	朝日	夕刊	3	競艇選手、安藤大将さん 本当の自分で優勝	性同一性障害
2003	11	15	読売	朝刊	スポ C	性転換選手「五輪OK」 IOCが近く新規則 術後一定期間経過を条件に	性転換
2003	11	15	朝日	朝刊	18	性転換選手、五輪参加も 理事会で議論へ IOC新規則案	性転換
2003	11	25	読売	朝刊	スポ C	五輪出場へ新規則案 性転換手術後「2年」	性転換
2003	11	25	朝日	夕刊	18	性転換選手の五輪出場資格、「手術後2年経過」が条件	性転換
2003	12	3	読売	朝刊	スポ C	性別変更選手の五輪参加承認へ	性転換 性別変更
2004	3	1	朝日	朝刊	15	五輪への性転換選手参加、規定を見送り IOC理事会	性転換
2004	3	3	読売	朝刊	スポ C	ゴルフ・豪州女子オープン、性転換の元男性選手が出場	性転換
2004	3	6	朝日	朝刊	18	元男性選手は予選落ち	性転換
2004	5	18	朝日	夕刊	18	性転換選手に五輪資格 「術後2年経過」条件 IOC新規定	性転換
2004	5	18	読売	夕刊	19	性転換選手、アテネに1号？	性転換
2004	7	17	朝日	朝刊	17	選手登録、記録、影響の可能性	性同一性障害 性転換
2004	11	2	朝日	夕刊	13	欧州女子ツアー参戦へ 性転換ゴルファー好発進	性転換
2005	9	9	読売	朝刊	20	競艇の性同一性障害選手 安藤が引退	性同一性障害
2006	1	27	読売	朝刊	18	仏サッカーのサンジェルマン MFドラソー、同性愛者のチーム	同性愛

年	月	日	新聞社	形態	項	タイトル	キーワード
2009	8	28	朝日	夕刊	13	「ゲイは招集しない」	同性愛者
2009	11	3	朝日	朝刊	21	砲丸女王は男になった 16歳から知らずに筋肉増強剤	性転換
2012	1	12	朝日	夕刊	9	ジョニー・ウィアが同性婚	同性愛
2012	4	12	読売	朝刊	25	[WOMEN] 心と体(7)性の不一致 乗り越えて	性同一性障害
2013	4	1	読売	夕刊	10	チャンプへ真っすぐ 「性同一性障害 悩む人に勇気を」 真道ゴーさん	性同一性障害
2013	4	3	読売	朝刊	29	「和歌山に恩返しを」 ボクシング	性同一性障害
2013	4	30	朝日	夕刊	9	NBA選手、同性愛を告白 「記念すべき日」 称賛の声	同性愛
2013	5	20	読売	朝刊	29	真道 ボクシング女子世界戦 自分らしく 頂点へゴー＝和歌山	性同一性障害
2013	8	17	朝日	朝刊	24	陸上イシンバエワが法の順守を訴え	同性愛
2013	8	19	朝日	夕刊	1	同性愛規制、ソチに影 ロシアが法律制定、五輪開催に異論続出	同性愛
2013	8	20	朝日	朝刊	33	同性愛規制の法律「ソチ五輪に適用されず」 IOC・ロゲ会長が明言	同性愛
2013	8	24	朝日	夕刊	9	IOC会長イシンバエワを批判 同性愛をめぐる発言	同性愛者
2013	10	30	読売	朝刊	8	五輪、同性愛者も歓迎	同性愛
2013	10	31	朝日	朝刊	23	(ソチ カウントダウン!) 五輪開幕まで100日 開催にはめど、「場外」に火種も	性的少数者
2013	12	11	朝日	夕刊	2	ソチ市内に「抗議ゾーン」 五輪期間中、反同性愛法「デモOK」	性的少数者
2013	12	20	読売	朝刊	7	欧米首脳 ソチ欠席 五輪開会式 表明相次ぐ 「同性愛規制に不快感」	同性愛
2013	12	21	朝日	夕刊	10	リングの上、ありのままの自分 女子プロボクサー真道選手、性同一性障害公表【大阪】	性同一性障害
2014	1	23	読売	朝刊	31	ゴー先輩の言葉 胸にビシッ! 岩出中 女子フライ級王者講演＝和歌山	性同一性障害
2014	2	8	朝日	朝刊	2	(ソチ五輪) 祭典、火種抱えて	性的少数者
2014	2	8	朝日	夕刊	6	同性愛規制に抗議の虹色 グーグル【大阪】	同性愛
2014	2	8	朝日	夕刊	2	抗議の虹色五輪 グーグル	同性愛
2014	7	14	朝日	朝刊	19	ソープ、同性愛を告白	同性愛
2014	12	2	読売	朝刊	25	同性愛選手 笑顔と無念	同性愛
2014	12	3	朝日	夕刊	7	大リーグ審判員が同性愛公表	同性愛
2015	1	24	読売	朝刊	34	全国高校スケート スピード女子1000 磯嶋45位＝宮城	性同一性障害
2015	3	7	朝日	朝刊	17	同性愛の差別排除へ、ラグビー界団結	性的少数者
2015	9	14	朝日	週刊	45	カミングアウトで世界を変える 各界で活躍するLGBTたち	LGBT
2015	11	1	朝日	朝刊	26	自分らしく、たどり着いた決勝 同性愛公表したオーウェンズ主審 ラグビーW杯	同性愛
2015	12	18	朝日	夕刊	15	フィットネス「戸籍の性で利用を」 性転換の会員、提訴へ【大阪】	性転換 性同一性障害
2015	12	25	読売	夕刊	14	性別変更の会員 ジム提訴 京都 コナミに480万円求め	性同一性障害
2016	1	22	読売	朝刊	32	全国高校スケート 女子1000 佐々木35位＝宮城	性同一性障害
2016	2	18	読売	夕刊	3	ナイキ 差別発言巡りパッキョオ契約解除	同性愛
2016	2	19	朝日	朝刊	10	同性婚対応、動く企業 パナソニック、規則改め容認へ	同性愛

年	月	日	新聞社	形態	項	タイトル	キーワード
2016	3	3	読売	朝刊	30	ジム損賠訴訟 コナミ争う姿勢 第1回口頭弁論=京都	性同一性障害
2016	4	13	朝日	朝刊	31	性別超える、スポーツでも もがく選手…多様性尊重の動き	トランスジェンダー 性同一性障害
2016	6	11	朝日	夕刊	6	元女子王者、男の拳に挑む 性別適合手術を決断 真道ゴー選手、28歳 【大阪】	性同一性障害
2016	7	27	朝日	朝刊	3	多様な性、貫くアスリート	LGBT 同性愛 性同一性障害 性的少数者
2016	8	22	朝日	夕刊	2	LGBT、五輪に足跡 自ら表明の選手、史上最多 競技場で結婚の誓いも リオ五輪	LGBT
2016	10	18	朝日	夕刊	9	LGBT理解、欧州でも難題 「罵声聞いた」ファンの7割 英団体調査	LGBT 同性愛者
2017	3	29	朝日	夕刊	6	男性自認レスリング選手、米に波紋 男子大会出場できず…女子大会V	性的少数者 性転換
2017	5	15	朝日	夕刊	7	多様な性、開かれた五輪へ 東京向け研修、取引企業にも基準 リオ、50人以上カミングアウト	LGBT
2017	6	19	朝日	朝刊	34	多様な女子 支援課題	トランスジェンダー
2017	6	20	朝日	朝刊	32	コナミ、利用者と和解	性的少数者
2017	6	20	読売	朝刊	33	性同一性障害配慮で和解 京都地裁 コナミ、ジム利用巡り	性同一性障害 LGBT
2017	8	25	読売	朝刊	22	「違いを越えて」(上)武道館 優しく変身(連載)その2	LGBT
2017	10	19	朝日	朝刊	11	性別変更した選手、排除 豪式フットボールリーグの決定波紋	性別変更
2018	2	24	朝日	朝刊	39	闘う、LGBTへの差別と	LGBT 性的少数者